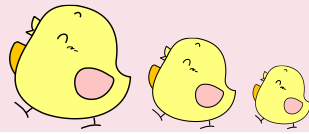


ひよこ新聞



2024年度
vol.3



鳥取市立病院
Tottori City Hospital

発行者：看護局

発行日：令和6年12月25日

プリセプティ研修（8月～12月）の様子をお伝えします

8月 急変対応・ポート管理

挿管介助の講義、手術室での実践を通して、患者さんの急変時の対応を学びました。また、ポートの穿刺、固定を実施し、その管理について理解を深めました。

【感想】

- 次の手技をイメージすることや、一つひとつの動作の意味を押さえて挿管介助を実践していきたい
- 実際に起きた時にパニックにならないように、冷静に医師の指示に従い行えるように、しっかりもう一度復習が必要！
- ポート穿刺の実技が2回あり、1回目で出来なかったことや注意点に気づけて2回目を行うことができ、自信がついた

9月 危険予知トレーニング

何気なく見ている風景や日常的な看護の場面には、いろいろな危険が潜んでいます。事例を通してその危険に気づく感性を磨くトレーニングを行いました。

【感想】

- 患者さんの表情や様子を観察して、いつもと違う感じに気づけるようにしていきたい
- 常に危険を予測すること、この患者さんに合った環境であるか、意識することが大切であると分かった
- 危険を事前に予測して対策を行うことが患者さんの安全、安楽につながる。グループで意見を出し合うことで自分が思いつかない発想、気づきがあった

10月 シミュレーション学習

看護観・倫理観を育み、患者さんに寄り添う看護を提供することを目的に、環境整備、おむつ交換など、日常的に経験している看護場면을再現して、その行動を振り返りました。

【感想】

- 患者さんの立場になってロールプレイをしたことで、患者さんの羞恥心、苦痛、思いを考えることができた
- 声かけひとつで安心感が全然違うと気づけた
- 患者さんの想いを表情や発言、ジェスチャーなどから汲み取り、声かけや、プライバシーに配慮した行動をしていきたいと思った
- 患者さんの自立度や残存機能を大切に、自尊心に配慮して関わる大切だと分かった

12月 看護過程の展開

看護師として、患者さんの状態をどう捉え、どのように看護を考えて実践していくかを、事例を用いてグループワークしました。

【感想】

- 日々変化する患者さんの状態に合わせて何が優先されるのかアセスメントし、看護診断、援助を考え行うことが大切と学んだ
- 個別性を大切に、その人に合ったケアや処置に繋がってほしい
- 患者さんの状態からアセスメントし、リスクを考えて必要な観察、行動になるように活かしたい
- 業務化するのではなく考える看護師になることが大切